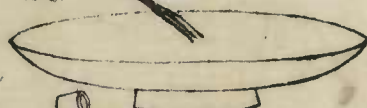
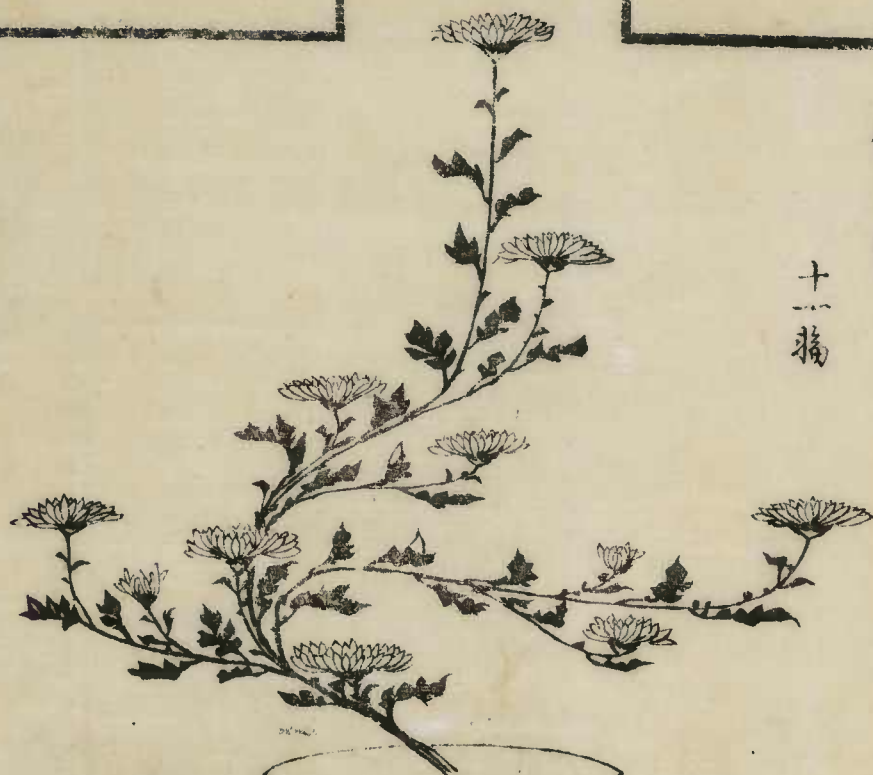
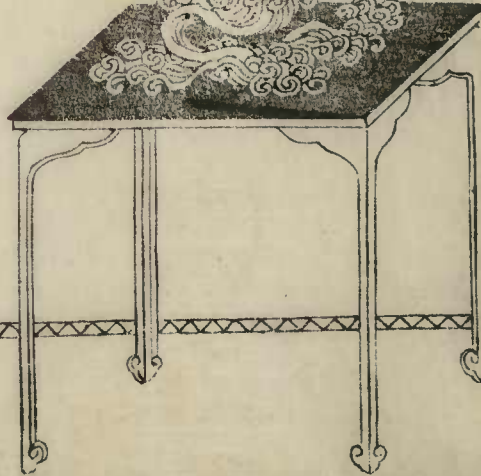
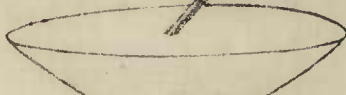
挿花濵名之海　人

席順不論貴賤
釣香爐
かきつばた
貳本
花器
ギヤマン
川松齋保一鳥

白梅

烏巖齋屋一雨

仙人菊

十二輪

龍規齋植一鍵

濵錦菊

十七瓶

龍登齋澤一濤女

喜久仙人

十三輪

龍雲齋関一平

初音菊

五場

龍遊齋今一琴女

コトノ山菊

十三歳

龍潟齋嶋一關女

タカラノ市菊（スガレ）

十三瓶

龍愛齋波一稲女

さが菊
九勝
龍光齋鈴一静

仙人菊

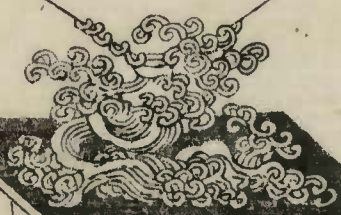
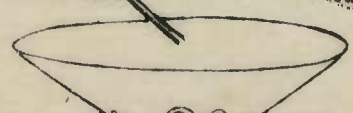
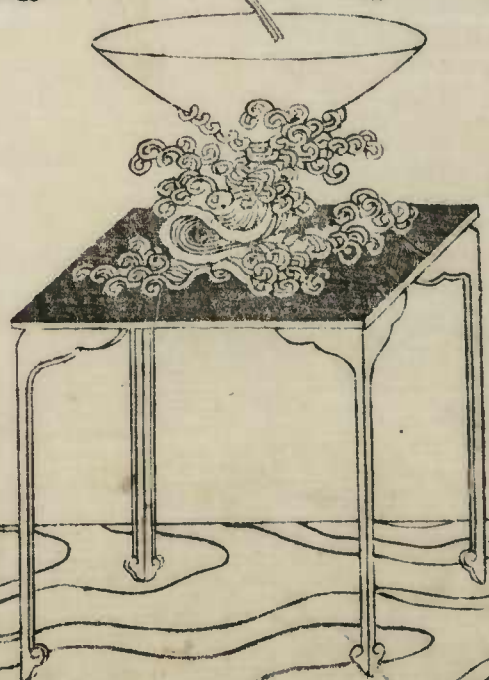
十一輪

龍月齋栗一興

射干
おく白菊

七瓶

大政亀女

書於花之亭南
霜後三屋之也
十五日亭雅書

槙 紅葉 芦

三夕口傳

鳥勝齋大一政女

かきつばた
川骨

政鶴齋
関一壽女

濱菊

七腸

川英齋野一獅

白源氏菊
秋海棠　十一瓶

英暁齋味一鶏

白梅

獅吼齋尾一亀

芍薬

十一勝

獅勇齋原一軽

松竹梅

口傳

蝶遊齋南一支女

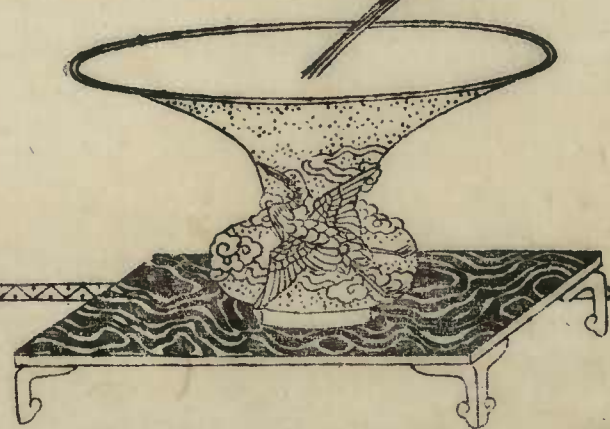
屆每桂樂之山
慧照白石游涼
雲霧

蔣塘居士

竹氏達志

三角為
川骨

烏勢齋
原一房

かきつた

大一紫女

結南天　口傳

政榮齋川一遊女

十月櫻
濱菊

政宝齋大一舩女

白かきつはた

大政柳女

水仙

五月之

大一宝女

蒲丁子菊

七歳

大政光女

杜若

七本

大一登女

もこの毛菊

十一勝

大政藤女

紅梅

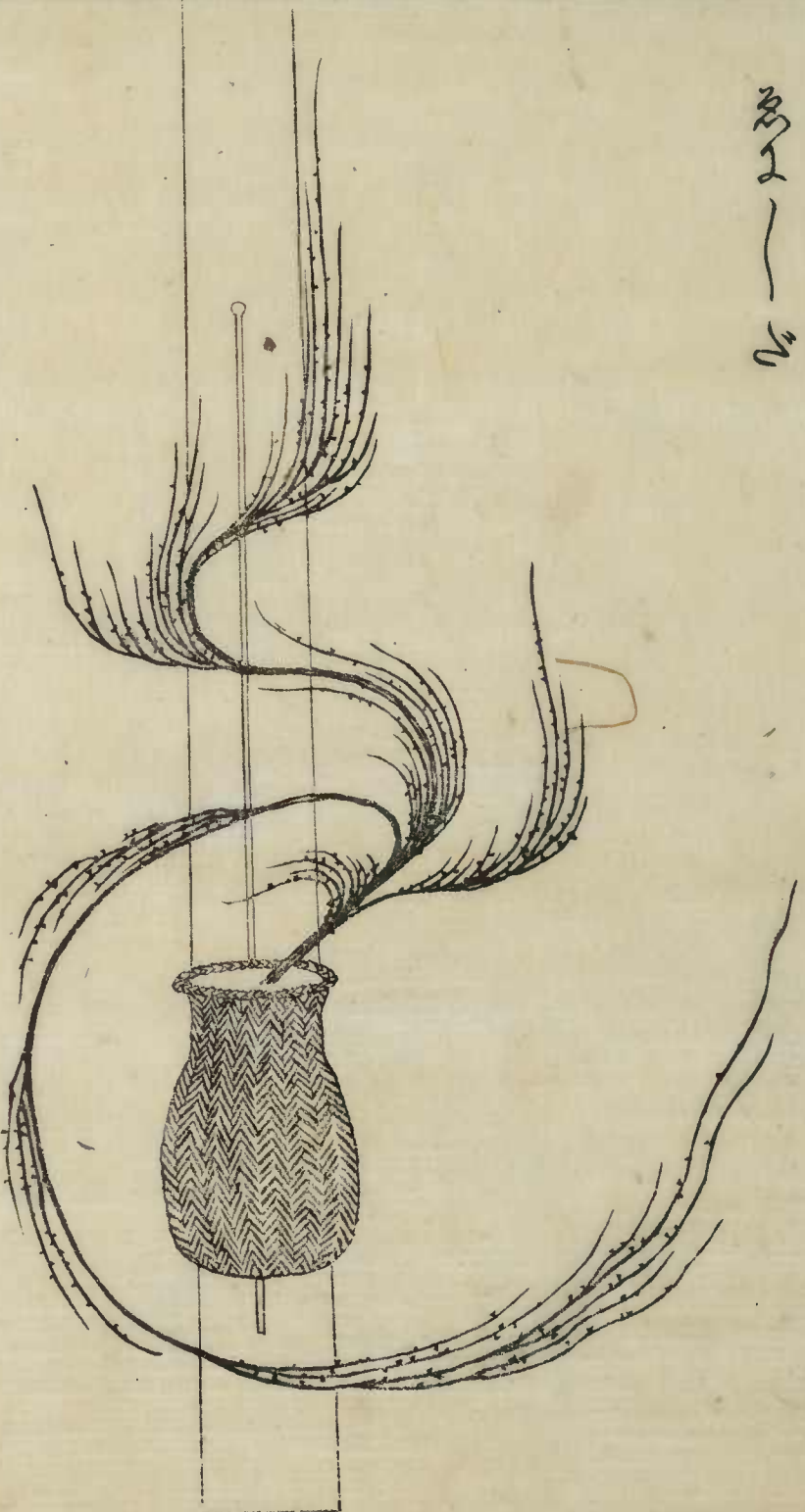
大一龍女

しだれ柳
おく白菊

大政義女

ゑましど

大一木女

馬蘭

九五枚

蝶養齋南一濤

山吹

玉川口傳

鳥昇齋保一鎌

松紅葉

玉川口傳

鳥吟齋西一知

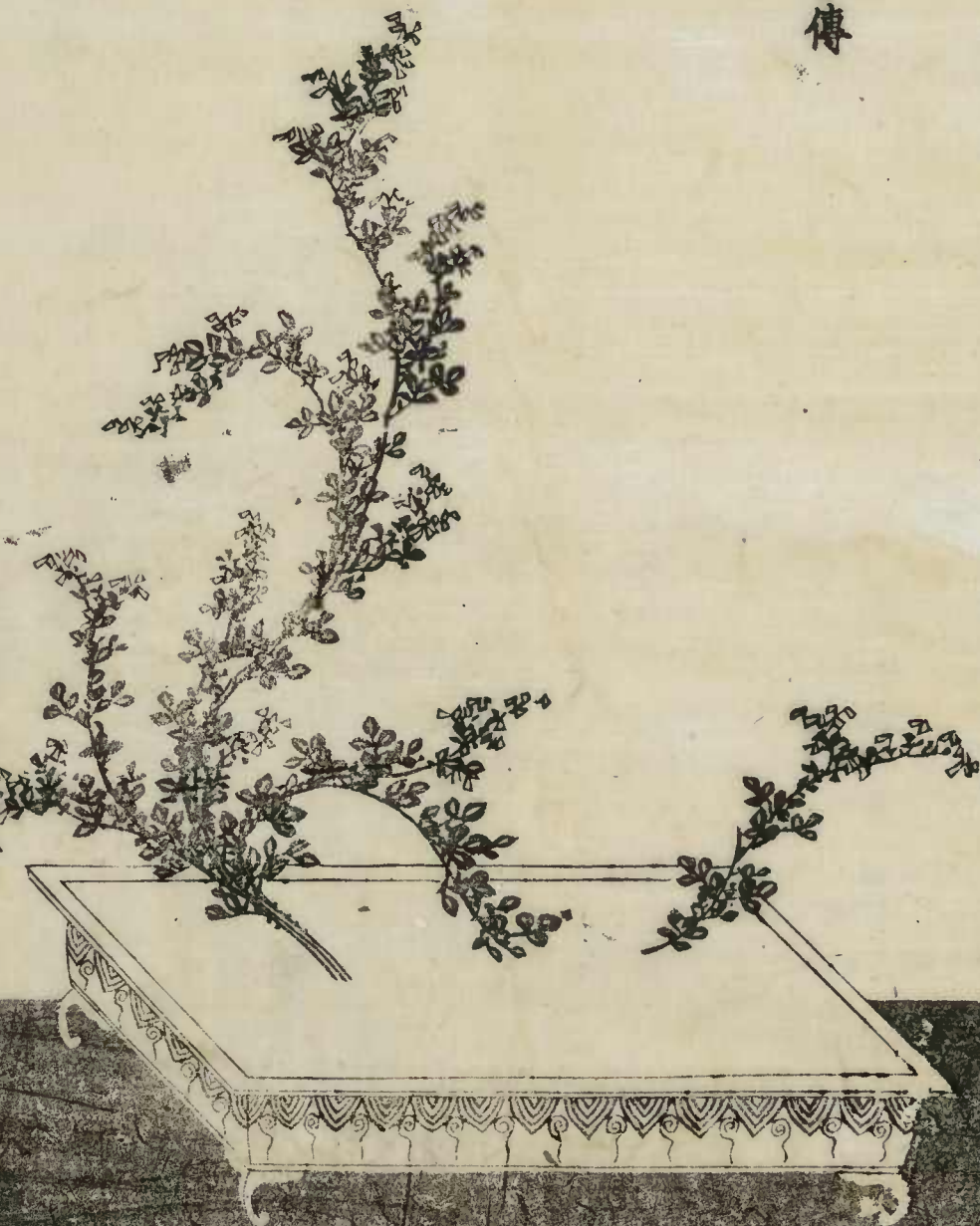
白牡丹きく

玉川口傳

鳥勢齋原一房

萩

玉川口傳

英菱齋池一藻

玉川口傳
鳥柳齋吉一意

芦

玉川口傳

鳥勝齋大一政女

紅梅
白玉椿
川松齋
保一鳥

挿花の遊ひ漢土にはじまり真を姫といひ根しめを婢といふ
と称ふ姫乃牡丹に婢の芍薬をさし海棠の姫に梨花の婢と
添るの類花形乃おもむく花のくずれる我婢とする猶元女の
貌に競べく真ンのひめ君の花を艶しく見せんの料なり
本朝は是と異なり姫婆を刑部梨地の印籠に古されたる革
巾着の二ッ提蝋色鞘の短刀に白地の扇をさし添へるが如く
婢も似ざる形もならびたるところ合せる風流ハ遠別擻子の浮世
姿浮ひあげたる素顔もや唐白粉のなりふりしたき姫婢の
擬にたるらふ勝れりされハ一島翁ハ古の道の言葉なりその意に
基つへると写しここれ書なり蟲鳴庵是を本ンとせバ師なく
しく挿花の奥旨を得る事難からずと養花水の香の
いとはまに

柳亭種彦しるす

撰者　東都　川松齋保一鳥

画工　溪齊英泉

天保六乙未年孟春新刻

大阪書林　心齋橋筋順慶町　柏原屋清右衛門

東都書林　日本橋通貳丁目　山城屋佐兵衛

大日本國郡全圖　彩色摺 箱入　全二冊

此六十余州の全圖ハ一ツハ經國の大業に志ある人をして地の理を知らしめ或ひハ遊歴の客廻國順拜の人々勝槩古跡を探り神社佛閣なんど尋るに必用の書にして比年東谿翁の撰にて其の志海内に公にせん事を計り累年の工夫をなして終に大成せしなり其各國の郡縣村落山河にいたるまで盡く著色をなして分ち一覧するに易からしめ其分明なる事恰も暗中に燭を得てたゞちに掌中を照すがごとく詳にして乾坤を知る事眼下に歴然として寔にこれ一奇書なり かの仙家縮地の術も是にハ及ざるべき歟 戸を出ずして天下をしるといへる古語も嘗て此冊子の為にいふなるべし

書肆
尾州名古屋本町通七丁目　永樂屋東四郎
江戸日本橋通本銀町二丁目　同　出店